

標準化経済性研究会の活動

関西学院大学経済学部教授
標準化経済性研究会 主査
土井 教之

標準化経済性研究会

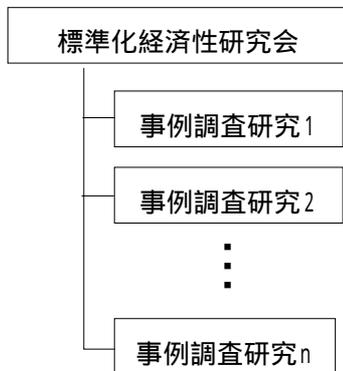
戦略的な標準化活動の重要性の高まり。
「標準化は企業の事業戦略における重要なツール」
「標準化は変革(カイゼン、革新)をマネジメントするためのツール」



- ✓事業戦略における標準化の重要性に関する認識の共有がまだ不十分。
- ✓企業にとっての標準の価値を明らかにする必要性。
- ✓研究成果の蓄積と情報発信の必要性。

平成15年9月より活動開始(経済産業省が支援)
産業組織論・環境経済学・競争戦略論等の研究者、
有識者、企業人(戦略的な標準化活動実践者)で構成。
経済・経営学の視点で検討。
マクロ的に検討した後、平成16年度後半より、企業インタ
ビューを通じて「事業戦略と標準化に関する事例研究」を実施。

標準化経済性研究会検討体制



個別事例調査 + 横断的テーマを意識した分析

事例研究体制

- 事例別に研究者のグループを構成

インタビュー実施手法

- 対象事業を手がけている企業の事業責任者等にインタビュー
- 研究者自らインタビュー議事録を作成、企業側の確認後、発表等に活用

発表機会

- シンポジウム、学会発表、出版

活動経緯

第一期(2003年後期～2004年度)

マクロ・ミクロ経済学的分析: 経済成長への影響、産業連関波及効果の分析

- ➔ 計量経済学的な手法では、標準化の利益を計測するのは現時点では困難

第二期(2005年度)

事例調査研究: 標準戦略の重要性を確認し、啓蒙

- ➔ 事例を共通因子で整理する必要がある

活動経緯

第三期(2006年度)

事例結果の一般化:成功・失敗の共通因子確認

➔ 標準化のための意思決定システムに問題

第四期(2007年度)

標準化に対する企業組織・意思決定システムの

分析: 標準マネジメント(人材、組織)の整備

➔ 本日のシンポジウム(“コンセンサス”)

事例とテーマ

- ✓各事例については、以下のようなテーマとの係わり合いを考慮して調査研究を実施した。
- ✓主な事例は、第3回事業戦略と標準化シンポジウムで紹介された。

事例	テーマ	標準化と市場・社会構造への影響	標準の目的と策定時期	標準の形成プロセス	標準化と知的財産
電子部品		○			○
産業用ロボット		○	○		
半導体産業		○	○		
LCD産業		○	○		
鉄鋼産業		○	○	○	
RFID/バイオメトリクス		○	○	○	
自動車車内ネットワーク		○	○	○	
自動車車外ネットワーク		○	○	○	
自動車産業				○	○
PC汎用インタフェース		○		○	
冷媒				○	○
排出権取引市場		○	○	○	
自転車		○	○		
光コネクタ		○		○	

見えてきた企業が利益を得るパターン

主な対外発表活動

- 研究・技術計画学会での発表(標準化セッション)
平成16年度～平成19年度 (計4回)
- 「事業戦略と標準化」シンポジウム
 - 第1回 平成17年3月23日
 - 第2回 平成18年3月 1日
 - 第3回 平成19年3月 1日
 - 第4回 平成20年6月26日(本日)
- 出版
 - 研究会編「国際競争とグローバル・スタンダード
—事例にみる標準化ビジネスモデルとは—」(2006)
 - 新宅・江藤編「コンセンサス標準戦略」(2008)

7

謝 辞

- 研究者の方々による調査の積極的推進
- 企業の方々のインタビューへ御協力
- 日本経済団体連合会の御協力

今後とも標準化問題に関する御関心と御理解をよろしくお願い申し上げます。

次のサイトにて、標準化経済性研究会の簡単な概要、経緯、メンバー及び今までの成果の一部がご覧になれます。

<http://srdi-st.jp/hyojun/>